

(議事要旨 2) 企業会計基準委員会の最近の活動状況について

企業会計基準委員会 (ASBJ) の小賀坂副委員長より、ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われた。

その後、以下のとおり、基準諮問会議の委員より意見が出された。

- のれんの会計処理について、欧州財務報告諮問グループ(EFRAG)及びイタリアの会計基準設定主体 (OIC) 等と共同してリサーチを行っており、ディスカッション・ペーパー「のれんの償却及び減損の会計処理に関するアプローチ」を公表予定とのことであるが、ディスカッション・ペーパーの位置づけをお聞きしたい。また、ディスカッション・ペーパーを公表するにあたっての ASBJ のデュー・プロセスは、どうなっているか。
- 国際的な意見発信において、OCI や純利益などは IASB の議論に相当貢献しているが、リースの会計処理の見直しが FASB と IASB とで異なる方向に進んでいることについて我が国関係者から懸念が示されている。これに対して ASBJ はどのように働きかけているか。
- 税効果会計専門委員会の進捗状況について、税制改正の議論で法定実効税率が引き下がる可能性などもあり優先度は高いと思うが、今後のスケジュールを教えてください。
- IFRS のエンドースメント手続は非常に重要である。経済のインフラとしてどういう会計基準がふさわしいかを海外に対して意見を発信し、IFRS の見直しを促すことと理解している。
- IFRS のエンドースメント手続について、基準の名称に関する進捗状況を教えてください。

これらの意見を受け、ASBJ 小賀坂副委員長より以下の発言がなされた。

- ディスカッション・ペーパーは、IASB の基準開発への協力という位置づけである。EFRAG、OIC と ASBJ の共同で公表するため、ASBJ の親委員会で審議を行っている。
- リース会計については、ASAF 等で意見を表明することになるが、その他、随時、IASB の関係者に我が国で聞かれる意見を伝えている。
- 税効果会計の指針の見直しについては、繰延税金資産の回収可能性のみ公開草案を公表すべきという意見やあまり時間をかけるべきではないという意見が聞かれているが、いつ頃、公開草案を公表するかは現状では未定である。
- IFRS のエンドースメント手続に関する会計基準の名称については、現在、検討中である。

以 上